



In Memoriam

Reverend Michael Hayashi

1965—2015

2015年12月8日、ウイニペグ本願寺にてリバーエンド・ミシエル林和尚 (Reverend Michael Hayashi) の葬儀に出席させて頂く機会を得ました。それは会場から溢れんばかりの哀悼者に囲まれ、荘厳でかつ肅々と執り行われた素晴らしい式でした。アオキ・タツヤ和尚は遙々バンクーバーよりいらし、Reverend Grant Ikuta氏 (ステイブ・ストーン)、Reverend James Martin氏 (カルガリー)、Reverend Kiyonobu氏、桑原氏 (サンフランシスコ)、Reverend Fredrich Ulrich氏 (?) も最後の挨拶のために遠方より駆けつけて来られました。ウイニペグ本願寺の関係者や友達がいかにミシエル先生を敬愛してきたのかは直ぐに理解できました。ミシエル先生はさぞかし圧倒されたことでしょう。

ミシエル先生は1965年4月26日にお生まれになり、末期がんと診断されて二週間後の12月4日に亡くなられました。診断後、彼の家族はすぐさま駆けつけました。亡くなられる数日前に妻であるキヨミ氏との二度目となる婚姻の儀を執り行いました。Harvey Kaita氏とウイニペグサンガは奉仕というよりも献身と言えるほどに、ミシエル先生が最後の時を心穏やかに過ごせるように尽くしました。

皆様もご存じのように、ミシエル先生が我々のお寺に着任したのは2010年の夏でマニトバ本願寺に異動なさったのが2013年の4月でした。短い期間ではありましたが彼は献身的な従者を築きました。もちろん先生の考えに共感できない者もおりましたが、その陽気な性格は慕情の念を抱かせるには十分でした。先生は熟考の人であり、他の者の評価に振り回されない人でした。先生は皆と共に笑い抱き合いました。

浄土真宗カナダ仏教会の勧めもあり、私たちのお寺はサンガ、ダーナ、婦人会と共同で香典を送りました。また個人でもトレント近郊の門徒を中心に香典を送りました。時期が遅れてしまつてはおりますが、2016年1月24日曜日の二時からの集会の場で、ミシエル先生を偲ぶ時間を特別に設けます。皆様是非ともお越しください。ご希望される方は香典も受け付けておりますので、封を閉めた封筒にキヨミ林様とそこご家族宛であることと提出者(つまり皆様)の氏名と住所を記入して提出してください。香典ですので申し訳ございませんが、領収書は発行されませんのでご了承ください。

ミシエル・リバーエンド氏に心からの哀悼の念を持つて。

草野 ロイ



STORIES FROM THE PRESIDENT

-ISM

私は言葉が好きです。(最早オタク的な程に) 好きすぎて、高校と大学でラテン語、ギリシヤ語、ドイツ語、フランス語を学びました。今や私の書齋は辞書で溢れ返っておりデジタルの辞書アプリも二つ携帯に入っています (the Merriam-Webster and Shorter Oxford apps)。そしてそれらを使い倒しています。言うなれば、言葉が伝えてくれること以上に私はそれらを愛してやみません。

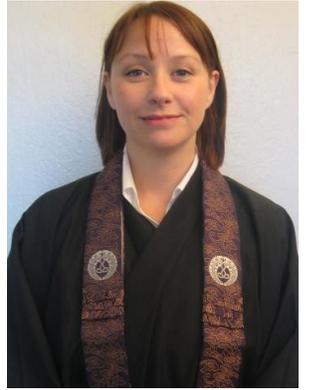
最近、そのアプリを出している Merriam-Webster という全米随一の出版社が2015年の「今年の単語」というものを発表しました。今年のそれは正式には単語ではなく「主義 (-ism)」というものでした。これは英語の文法で言う「接尾語 (suffix)」というものです。選考理由は、「主義」で終わる七つの単語が今年一年間で最も調べられたからだというものでした。その七つを列挙すると「社会主義 (Socialism)」、「ファシズム (Fascism)」、「人種差別主義 (Racism)」、「男女同権主義 (Feminism)」、「共産主義 (Communism)」、「資本主義 (Capitalism)」、「そして最後に「テロリズム (Terrorism)」。

今年には私たちはこれらの言葉に象徴される世界的事件に悩まされてきました。これらの言葉はニュースを埋め尽くし、私たちは嫌でも日々の平穩についてその意味を考え直すこととなりました。

他の接頭語や接尾語がそうであるように、「-ism」もとても便利な言葉です。その出版社によると、動詞を名詞化する働きを持つているそうです。例えば「批判する (criticize)」は「批評 (criticism)」に変わります。別の働きとしては、人間の状況を表現するときにも使われるようです。こちらの例は「性別主義 (sexism) (Sexual addiction c.)」、「アルコール依存症 (alcoholism)」や「長期無断欠勤 (absenteeism)」などがあります。どれも今の私たちのお寺では問題なさそうですね (もちろんもつと皆様がお寺にお越し下さると、ますます嬉しいですが)。他にも紹介したい様々な使い方がありますが、最も私の気を引いたものは宗教を表現するときの使い方です。やはり私たち門徒にとって最も大切な「-ism」は「仏教 (Buddhism)」でしょう。Merriam-Webster の七つの「今年の単語」には入っていませんが、門徒の中では番付の一番上にあることでしょう。浄土真宗の門徒として、今年一年の日々の生活の中で仏様の教えについて考え、それを実践してきたことだと思います。手を合わせ、報恩の念を持ちながら「南無阿彌陀仏」と唱えるのです。他者を思いやり、理解し、尊重する生き方に努め、他者の施しには感謝をし、自分の誤りには真摯に謝ります。

2015年はこれまでより困難で疲れ果ててしまう年であったかもしれませんが、それでも着実に力強く進んでいるのです。奉仕の精神 (volunteerism (これも-ismですね)) はトロント本願寺に力強く生きており、来年はそれがより大きく育っていくことでしょう。改めまして門徒の皆様に感謝いたします。次回お会いする時は、一人一人と微笑みながら抱きしめあい、期待と興奮を持って新たな年を見据えていきましょう。合掌。

翻訳 肥後英志郎



新年、あけましておめでとーいございます！

あつという間の一年でしたね。カナダ教団や、トロントのお寺でも大変忙しい年でもありました。そのような年でしたが、この場をお借りして、皆様に感謝の意を表させていただきます。いつもの、お寺にてお手伝いくださった方ボランティアの皆様へ、有難うという言葉だけでは尽くせぬ程感謝しております。このお寺が存続することができるのも、このように皆様のお手伝いがあるからです。また、新しい年である2016年もよろしくお願い申し上げます。

私たちは、とても慌ただしい時代に生きています。日々の仕事に追われ、目まぐるしく時間が、一日が過ぎていきます。しかし、私はその忙しさの中、一つ一つのなすべきことが終わっていく満足感も感じられるので、忙しい日々が嫌いというわけではありません。そういつておきながら、日々になくてはいけない事柄に追われてしまい、忙しさに飲まれてしまいそうな時もあるのは事実です。そうして、夜遅くまで仕事をしてまで、その日の内に終わらせようとし、更に忙しさを増しているのかもしれない。もうどうなるか分からない結果のことは気にするのは今はやめよう、と考えつつも必ず結果というものはあるのです。コーヒーも一時の眠気を防ぐ効能はあるものの、多くを飲み続けるのは健康に良いことではありません。なにも、私だけが多忙な日々を送っているわけではありません。よく見ると、お寺のボランティアに来てくださる方達もいつも忙しそうにみえます。中には、リタイアした方もいらつしやるのですが、「仕事していた時より、リタイアした後のほうが忙しいよ」なんて言う方もいるんですよ。忙しいと言い、仕事を終えても、また次の仕事が出てきて際限がありません。

私たちは毎日の生活の中で様々な責任もあり、そのような人生は普通とも言えます。ただ、忙しさばかりに追われる人生よりも、楽しみを見出せる人生を送ることが大切なことです。忙しさに飲み込まれてはいけませんね。

私の大学の恩師である河村レスリー先生にこんな冗談を聞いたことがあります。ある盲目の旅人が、崖から落ちてしまったそうです。彼は落ちる前に崖の淵になんとかつかまり、「助けてくれー！誰かー！」と叫びました。叫び声を聞いた人が旅人に近づき「お助けしましょうか？」と尋ねました。旅人は、「もちろん、お願いします。今にも落ちてしまいそうです。早く私をひっぱり上げてください！」と言いました。すると、助けを申し出た人は「では、手を離さない」とだけ言って立ち去りました。旅人は大変驚きました。そしてまた、「助けて！」と叫んだのです。そうすると、また違う人がきて「どうしましたか」と旅人に尋ねました。旅人は心の中で「（崖から落ちそうな私を見てどうしましたか？だど！）」と焦ります。崖から落ちそうな旅人は「早く引き上げてください。今にも崖に落ちてしまいそうです！」と叫びます。そうすることこの人も「まーまー、落ち着いて。手を離してみなさい」と言って去ってしまいました。盲目の旅人はとうとう、腕、指の力が入らなくなり、手を離してしまいました。旅人は崖の下に落ちていくと思いきや、すぐに地面に足がつかまりました。実際は、ちよつと足を伸ばしたら、地面に着くような高さだったというわけです。

私達の人生もこの盲目の旅人のようなものかもしれません。日々の忙しさに追われ、目を奪われ、本当に大切なことが見えなくなっていることもあるでしょう。そのような日常生活において、大切なのは「そのままに・ありのままに」ということに気づくことです。

今年も、ただ忙しい生活だけで過ごして終わっていくのではなく、自分の計らいにとらわれずに、生かされている大切さ、美しさに気づきリラックスした日を送りたいですね。とは言いながらも特に、年末、年始で忙しい時節です。だからこそ、阿弥陀如来様の智慧に照らされ、仏の慈悲を感じる時でもあります。皆様お身体ご自愛くださいませ。

合掌

クリスティーナ・ヤンコ

佛 心

二〇一五年十月号

浄土真宗

トロント

本願寺



年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

私は、2014年6月6日に、前門主の跡を承けて法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派第二十五代門主に就任いたしました。この法統継承を仏祖の御前に奉告する

「伝灯奉告法要」を本年10月1日より、京都の本願寺にてお勤めいたします。この法要を機縁として、多くの人々に浄土真宗のみ教えが伝わることを期待しています。

浄土真宗のみ教えは、今から約800年前に親鸞聖人によって説かれました。そして、今日の私たちにまで受け継がれてきています。親鸞聖人の時代においても現代においても浄土真宗のみ教えは、変わることなく、私たちの生きる依りどころとなります。なぜなら、私たちは、いつ終わるか誰にも分からない命を生きているからです。明日、私が事件や事故にあわないという保証は誰も出来ません。

本年もお寺へお参りし、阿弥陀さまのおはたらきを聞かせていただきましょう。そして、そのことによって、自分自身の姿を省みて、日々のご縁を大切にしながら、南無阿弥陀仏とお念仏申す一年を過ごさせていただけます。

2016年1月1日

浄土真宗本願寺派

門主 大谷光淳